

光格天皇・仁孝天皇研究論文目録（稿）

久禮 旦雄

公益財団法人モラロジー研究所 道徳科学研究センターでは、平成二十八年（二〇一六）度より、創立者である廣池千九郎生誕百五十年記念事業として、「皇室関係資料文庫」を構築し、そこで収集した天皇・皇室に関係する知識・情報を公開するデータベースサイトとして、「ミカド文庫」を開設した（二〇一七年一月、<http://mikado-bunko.jp/>）。

そこでは、「歴代天皇の略伝」「皇室関係の用語辞典」「今上天皇の歩み」とともに、「皇室関係の文献目録」として、全天皇とその主要業績についての研究論文・文献の情報を収集し、順次公開している。今回掲載するのは、その中の光格天皇・仁孝天皇についての文献目録である。

光格天皇は、江戸時代後期の安永八年（一七八〇）、閑院宮家から後桃園天皇の養子となられ、第一一九代天皇として即位

され、文化十四年（一八一七）に子である仁孝天皇に譲位された。今上天皇の直系の先祖にあたられ、また、現在においては最後の譲位（生前退位）を行われた天皇である。

今年（二〇一七年）の一月二十四日、産経新聞は、「陛下光格天皇の事例ご研究 宮内庁に調査依頼 6年半前」とする記事を掲載した。同記事によれば、「天皇陛下が約6年半前に譲位の意向を示した当初、最後に譲位した光格天皇の事例を調べるよう宮内庁側に伝えられていたことが23日、分かった。陛下が譲位の具体例に言及されていたことが判明するのは初めて。光格天皇は譲位後に権力から遠ざかっており、陛下が持たれている譲位のイメージに合致していた可能性がある。：陛下は遅くとも平成22年7月には、相談役の宮内庁参与らを集めた会合、いわゆる参与会議の場で譲位の意向を示したが、関係者

によると、その前後に、宮内庁幹部らに光格天皇の譲位の事例を調べるよう依頼されたという。」としており、複数の「関係者」の発言として、「譲位後の光格天皇は、中世の後鳥羽上皇らと異なり、権力をふるっていない。譲位の直近の事例で資料が残っていることもあるが、陛下の思い描く譲位後のイメージと重なる部分もあったのではないか」「陛下は天皇の歴史を誰よりもよくご存じた。歴史から学び、譲位の意向を徐々に固められたのだろう」としている。

これに先立つ一月十日、同紙は「光格天皇の「あるべき天皇像」を模索した姿は天皇陛下に通じる 東大名誉教授・藤田覚」として、『幕末の天皇』などの著作で知られる、東京大学名誉教授で近世史家の藤田覚氏のインタビューを掲載している（松本学・広池慶一記者署名記事）。氏の発言を抜粋すると以下の通りである。

光格天皇と現在の天皇陛下には似通った部分があるように思います。それは「あるべき天皇像」を自らの手で描かざるをえなかったという特別な境遇です。

天皇陛下の直系のご先祖である光格天皇は、傍系の閑院宮家から即位しました。：天皇はどうあるべきか」「どうあるべきでないか」を、試行錯誤を繰り返しながら、模索せざるをえなかったわけです。：天皇の権威の強化を図り

：飢饉に苦しむ民への米の放出を幕府に申し入れ、実現させたこともあります。：

「象徴天皇」として即位した初めての天皇である天皇陛下も、同様の模索を重ねられてきたのではないでしょう。：国民が苦難に直面しているときは、なるべく近くで寄り添い、苦しみをやわらげる。これが新しい天皇像であるというのが天皇陛下のお考えなのだと思います。天皇陛下が譲位の制度化をお望みなのであれば、その意向に沿うほかないと思います。象徴天皇という新しい天皇像をお一人で作り上げられた陛下がおっしゃっているわけです。

幕末に光格天皇が主導した神事や儀礼の復古は、天皇の政治的・思想的な権威強化につながり、明治以降の近代天皇制へと引き継がれていきました。

天皇陛下の「お気持ち」表明も、将来は歴史上のエポックメイキングな出来事として振り返られるはずです。

なお、情報の収集については、国立国会図書館蔵書検索システム (NDL-OPAC) と、Cinii (NII 学術情報ナビゲータ) を利用し、適宜、修正・追加した。データの入力については、小林礼子の協力を得た。

【光格天皇】

- 1 和田英松「後桃園天皇の崩御と光格天皇の登極とについて」『歴史地理』一〇―五（歴史地理学会）一九〇七↓同『国史国文之研究』（雄山閣、一九二六）
- 2 列聖全集編纂会編『列聖全集御製集第一巻』（光格天皇御製集・光格天皇御集拾遺・光格天皇中宮欣子内親王御歌所収）（列聖全集編纂会、一九一七↓一九二二再版）
- 3 猪熊信男『光格天皇と聖護院門跡』（聖護院門跡、一九四〇）
- 4 辻善之助「光格天皇の御生母磐代君」同『日本文化史別録』第四巻（春秋社、一九七〇）
- 5 津田良樹「光格院修学院御幸史料からみた文政7年の修学院村・一乗寺村の民家について」『学術講演梗概集F都市計画、建築経済・住宅問題、建築史・建築意匠一九八六』（日本建築学会、一九八六）
- 6 久保貴子「江戸時代の改元（三）―天明改元から慶応改元まで」『民衆史研究』四十二号（民衆史研究会、一九九一）
↓同「改元に見る朝幕関係」同『近世の朝廷運営』（岩田書院、一九九八）
- 7 高埜利彦「後期幕藩制と天皇」永原慶二編集代表『講座前近代の天皇2 天皇権力の構造と展開』（青木書店、一九九三）↓同『近世の朝廷と宗教』（吉川弘文館、二〇一四）
- 8 井ヶ田良治「天明7年の御所御千度参り」『同志社法学』四六―三・四（同志社法学会、一九九四）
- 9 藤田覚「光格天皇の登場」『幕末の天皇』（講談社〈選書メチエ〉、一九九四↓講談社〈学術文庫〉、二〇一三）
- 10 「爆発的人气！御所を廻る「お千度参り」とは？」『別冊宝島EX 京都魔界めぐり』（宝島社、一九九四）↓改訂版、一九九五
- 11 小田原城天守閣編『小田原城特別展 御室仁和寺の名宝 大久保忠貞と光格天皇』（小田原城天守閣、一九九六）
- 12 藤田覚「史料散步 御所千度参りを呼びかける「張札」」『日本歴史』五九一（日本歴史学会・吉川弘文館、一九九七）
- 13 えとう乱星「十代徳川家治・桃園天皇、後桜町天皇、後桃園天皇、光格天皇―概説―家治時代の朝幕関係、事件 明和事件、謎 禁裏賄方役人不正事件、政策 朝廷懐柔政策の実情」『歴史読本』四四―七「シリーズ事件推理6 徳川十五代將軍家と天皇家」（新人物往来社、一九九六）
- 14 長谷圭剛「十一代徳川家斉・光格天皇、仁孝天皇―概説 家斉時代の朝幕関係、事件・尊号一件、謎 新内侍の皇女毒殺疑惑、政策 「天皇」号復活」『歴史読本』四四―七「シリーズ事件推理6 徳川十五代將軍家と天皇家」（新人物往来社、一九九六）

- 15 北川一郎「近世後期の民衆と朝廷 天明七年御所千度参りの再検討」『新しい歴史学のために』二四一（京都民科歴史部会、二〇〇一）
- 16 霞会館資料展示委員会編『霞会館資料第二四輯』特別展 光格天皇と幻の將軍 京都・日光・例幣使（霞会館、二〇〇一）
- 17 「特集カラー 光格天皇と幻の將軍—京都・日光・例幣使」『歴史読本』四六一—一「特集徳川十五代將軍家を創った実力者・権力者たち」（新人物往来社、二〇〇一）
- 18 盛田帝子「光格天皇とその周辺」『文学』二一五（岩波書店、二〇〇一）↓同『近世雅文壇の研究 光格天皇と賀茂季鷹を中心に』（汲古書院、二〇一三）収録
- 19 盛田帝子「光格天皇と宮廷歌会—寛政期を例に」『雅俗』9（雅俗の会、二〇〇二）↓同『近世雅文壇の研究 光格天皇と賀茂季鷹を中心に』（汲古書院、二〇一三）収録
- 20 村和明「近世院政の組織と制度—光格上皇の「院政」を事例に」『論集きんせい』二四（近世史研究会、二〇〇二）↓分割・加筆して「光格上皇御所における堂上公家の機構」『近世朝廷の「院司」について』同『近世の朝廷制度と朝幕関係』東京大学出版会、二〇一三）
- 21 松本健一「光格天皇から昭和天皇まで—非常事態としての近代天皇制」『大航海』四五「特集 近代天皇論」（新書館、二〇〇三）↓同『畏るべき昭和天皇』（ビジネス社、二〇〇七）、改訂新版『昭和天皇 畏るべき「無私」』（毎日新聞社、二〇一三）。
- 22 藤田覚「光格天皇の意味—復古と革新」『大航海』四五「特集 近代天皇論」（新書館、二〇〇三）↓同『近世天皇論 近世天皇研究の意義と課題』（清文堂出版、二〇一）
- 23 盛田帝子「光格天皇論—その文化的側面」『大航海』四五「特集 近代天皇論」（新書館、二〇〇三）↓同『近世雅文壇の研究 光格天皇と賀茂季鷹を中心に』（汲古書院、二〇一三）収録
- 24 宮内庁書陵部編 藤井讓治・吉岡眞之監修・解説『天皇皇族実録126 光格天皇実録』第一卷（ゆまに書房、二〇〇六） 宮内庁書陵部所蔵本（一九三六編纂終了、一九四四印刷完了）の複製
- 25 宮内庁書陵部編 藤井讓治・吉岡眞之監修・解説『天皇皇族実録127 光格天皇実録』第二卷（ゆまに書房、二〇〇六） 同上
- 26 宮内庁書陵部編 藤井讓治・吉岡眞之監修・解説『天皇皇族実録128 光格天皇実録』第三卷（ゆまに書房、二〇〇六） 同上
- 27 宮内庁書陵部編 藤井讓治・吉岡眞之監修・解説『天皇皇族実録129 光格天皇実録』第四卷（ゆまに書房、二〇〇

- 六）同上
- 28 宮内庁書陵部編 藤井讓治・吉岡眞之監修・解説『天皇皇族実録130 光格天皇実録』第五卷（ゆまに書房、二〇〇六）同上
- 29 三田村雅子「〈記憶〉の中の源氏物語（三三三）光格天皇と宣長の時代」『新潮』一〇四―五（新潮社、二〇〇七）↓「光格天皇と宣長の時代」同『記憶の中の源氏物語』（新潮社、二〇一三）
- 30 田中明「修学院離宮における光格院の御幸様式について 修学院離宮なる場所の研究3」『学術講演梗概集F-2 建築歴史・意匠 二〇〇七』（日本建築学会、二〇〇七）
- 31 田中明「修学院離宮における御幸様式の変遷と場所構成について」『日本建築学会計画系論文集』六二一（日本建築学会、二〇〇七）
- 32 井沢元彦「逆説の日本史（第七四一回）第七十四話 徳川幕閣の展開と改革四「田沼意次、その虚像と実像」編（その二〇）尊王論隆盛に決定的な役割を果たして朝廷史を変えた「光格天皇という事件」『週刊ポスト』四〇―五（小学館、二〇〇八）↓同『逆説の日本史十五 近世改革編―官僚政治と吉宗の謎』（小学館、二〇〇八 文庫版、二〇一二）
- 33 井沢元彦「逆説の日本史（第七四二回）第七十四話 徳川幕閣の展開と改革四「田沼意次、その虚像と実像」編（最終回）約九百年中絶していた天皇号を「復活」させたことが光格天皇の最大の「業績」『週刊ポスト』四〇―六（小学館、二〇〇八）↓同『逆説の日本史十五 近世改革編―官僚政治と吉宗の謎』（小学館、二〇〇八 文庫版、二〇一二）
- 34 落合莞爾「日本近代史の真相 陸軍の裏側を見た吉蘭周蔵の手記（四八）光格帝の御事跡と閑院宮系天皇子孫Ⅱ京都皇統の経緯」『ニューリーダー』二七八（はあと出版、二〇一〇）
- 35 藤田覚「朝幕関係の転換―光格天皇の時代」同『天皇の歴史〇六 江戸時代の天皇』（講談社、二〇一一）
- 36 内田誠一「福井崇蘭館旧蔵・光格天皇宸翰尺牘について」大取一馬編『典籍と史料』（思文閣出版、二〇一一）
- 37 藤田覚『近世天皇論 近世天皇研究の意義と課題』（清文堂出版、二〇一一）
- 38 倉吉博物館編『大江磐代君顕彰展 大江磐代君没後二百年に寄せて』（倉吉博物館、二〇一二）
- 39 須藤茂樹「作品紹介「光格上皇修学院御幸儀伎図絵巻」について」『四国大学紀要』（四国大学、二〇一三）
- 40 村和明『近世の朝廷制度と朝幕関係』（東京大学出版会、二〇一三）

- 41 盛田帝子『近世雅文壇の研究 光格天皇と賀茂季鷹を中心
に』(汲古書院、二〇一三)
- 42 一戸渉「書評 盛田帝子著『近世雅文壇の研究 光格天皇と
賀茂季鷹を中心に』」『国語と国文学』九一—一二(明治書
院、二〇一四)
- 43 佐藤雄介「寛政—文化期の朝廷財政と光格天皇」同『近世
の朝廷財政と江戸幕府』(東京大学出版会、二〇一六)
- 44 伊藤智永「天皇陛下象徴の思想とは何か「光格天皇」と
「ジョージ5世」に学んだ天皇制改革」『サンデー毎日』九
六—七(二〇一七)
- 45 野村玄「近世における天皇の地位と正統性—大刀契・劍
璽・通過儀礼及び皇統の扱いに注目して—」『大阪大学大
学院文学研究科紀要』五七(大阪大学、二〇一七)
- 46 所功「光格天皇の讓位式と『桜町殿行幸図』」『藝林』六六
—一(藝林会、二〇一七)
- (参考) 野村朋弘「皇位継承に於ける謚号制の位置」『日本文化
と神道』三号(文部科学省21世紀COEプログラム國學院
大學「神道と日本文化の国学的研究発信の拠点形成」、二〇
〇六)
- 号(史学会、一九一五)
- 2 列聖全集編纂会編『列聖全集御製集第一卷』(仁孝天皇
御集所収)(列聖全集編纂会、一九一七—一九二二再版)
- 3 長谷圭剛「十一代徳川家斉・光格天皇、仁孝天皇 概説
家斉時代の朝幕関係、事件尊号一件、謎 新内侍の皇女毒
殺疑惑、政策 「天皇」号復活」『歴史読本』四四—七
「シリーズ事件推理6 徳川十五代將軍家と天皇家」(新人
物往来社、一九九九)
- 4 堀和久「十二代徳川家慶・仁孝天皇、孝明天皇 概説 家
慶時代の朝幕関係、事件 「海防勅書」下賜、謎 將軍位
継承の謎、政策 学習院の設置」『歴史読本』四四—七
「シリーズ事件推理6 徳川十五代將軍家と天皇家」(新人
物往来社、一九九九)
- 5 霞会館資料展示委員会編『霞会館資料第二六輯』仁孝天
皇泰平の余芳 幕末の宮廷と柳営(霞会館、二〇〇三)
- 6 佐竹明子「学習院学問所設立の歴史的意义」『京都女子大
学大学院 文学研究科研究紀要史学編』第二号(京都女子
大学大学院、二〇〇三)
- 7 「第百二十代仁孝天皇／女御・鷹司繫子」『歴史読本』五〇
—一二「特集 歴代皇后全伝」(新人物往来社、二〇〇五)
↓『別冊歴史読本33 歴代天皇・皇后総覧』(新人物往来
社、二〇〇六) ↓歴史読本編集部編『歴代天皇125代総覧』
- 1 本多辰次郎「学習院創建及其沿革」『史学雑誌』二六篇四
- 【仁孝天皇】

- 8 (新人物往来社「新人物文庫」、二〇一四)
 宮内庁書陵部編 藤井讓治・吉岡眞之 監修・解説『天皇
 皇族実録131 仁孝天皇実録』第一卷(ゆまに書房、二〇〇
 六) 宮内庁書陵部所蔵本(一九三六編纂終了、一九四四
 印刷完了)の複製
- 9 宮内庁書陵部編 藤井讓治・吉岡眞之 監修・解説『天皇
 皇族実録132 仁孝天皇実録』第二卷(ゆまに書房、二〇〇
 六) 同上
- 10 宮内庁書陵部編 藤井讓治・吉岡眞之 監修・解説『天皇
 皇族実録133 仁孝天皇実録』第二卷(ゆまに書房、二〇〇
 六) 同上
- 11 佐竹明子「学習院学問所が果たした役割」『近世の天皇・
 朝廷研究』二(学習院大学人文科学研究所、二〇〇九)

